

# CentreCOM® 9006SX/SC リリースノート

この度は、CentreCOM 9006SX/SC をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。  
このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いた  
だきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。  
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1 ソフトウェアバージョン 2.5.0J

## 2 本バージョンで追加・削除された項目

ソフトウェアバージョン 2.4.2J から 2.5.0J へのバージョンアップにおいて、以下の項目が追  
加・削除されました。

### 2.1 イングレスフィルター設定について

[Virtual LANs/QoS] メニューに、各ポートでイングレスフィルターの有効・無効を設定する  
[Ingress Filter configuration] メニューオプションが追加されました。以下に設定手順を示しま  
す。

- 1 [Main Menu] -> [Virtual LANs/QoS] -> [Ingress Filter configuration] とすすみます。
- 2 「Ingress Filter configuration」画面からポート番号を選択し、「Ingress Filter Menu」画  
面を表示します。次の画面は「ポート 1」を選択した場合です。



#### Enable Ingress Filter/Disable Ingress Filter



イングレスフィルターの有効・無効を設定します。デフォルトは Enable Ingress Filter で  
す(ソフトウェアバージョン 2.4.2J 以前は常に Enabled)。

#### Enable Ingress Filter


受信パケットの VLAN ID が受信ポートの所属 VLAN と一致した場合のみパケットを受け  
入れ、それ以外は破棄します。

#### Disable Ingress Filter

受信パケットの VLAN ID が受信ポートの所属 VLAN と一致しない場合でも、パケットは  
破棄されません。


- 
 本製品でIGMPスヌーピング機能によるマルチキャストグループの登録を行い、かつ、本製品にIGMPメッセージを送信しないマルチキャストパケット送信専用サーバーなどを接続した環境の場合、サーバーの接続ポートをDisable Ingress Filterに設定することにより、サーバーから本製品に登録されたマルチキャストグループ宛のフラッディングが可能になります。
- 
 マルチプルVLANモード時はこのメニューオプションが表示されません。イングレスフィルターはデフォルトのEnabledで動作します。

## 2.2 ポートセキュリティ Dynamic Limited モードについて

 「AT-S24/AT-A26 オペレーションマニュアル」v. 2-46ページ


ポートセキュリティ機能のセキュリティモードの1つ「Dynamic Limited」が本製品(AT-S26搭載製品)でサポートされました。Dynamic Limitedモードでは、設定した上限まで学習したMACアドレスをダイナミックエントリーとして登録します(Limitedモードはスタティックエントリーとして登録)。Dynamic Limitedモードの詳細については、「AT-S24/AT-A26 オペレーションマニュアル」2-46 ページ以降を参照してください。

## 2.3 Fan/Over-Temperature トラップについて

 「AT-S24/AT-A26 オペレーションマニュアル」2-45ページ

Fanトラップ(ファンの異常検出時に発行)と、Over-Temperatureトラップ(システム内の温度異常検出時に発行)を、システムの起動後2回目以降の異常発生時(一度通常状態に復旧した後、再度異常が発生した場合)にも送信するよう機能拡張しました。

## 2.4 Xmodem によるソフトウェアのダウンロードについて

 「AT-S24/AT-A26 オペレーションマニュアル」2-22ページ

[Administration] メニューから、Xmodemによるソフトウェアのダウンロードを行う[XModem software update to this system]メニューオプションが削除されましたので、ご了承ください。

Xmodemを使用してソフトウェアをダウンロードする場合は、Bootメニューから行ってください。以下に手順を示します。

- 1 電源ケーブルを抜き差しする、リセットボタンを押す、または [Reset and restart the system] オプションを選択して、システムを再起動します。
- 2 「Hit any key to run diagnostics or to reload system software. . .」と表示されている間に任意のキーを押します。

```

BOOT VerX.X

RAM Test...OK

Hit any key to run diagnostics or to reload system software.....
  
```

- 3** Bootメニュー(ATI Diagnostics)が表示されたら、「->」プロンプトに続けて[]を入力し、[X: XMODEM download updated System Software] オプションを選択します。

```
ATI Diagnostics

Model: AT-XXXX, Revision Level: XX
MAC Address: 0000F4272821/0000F4272821

Select an option:

R: RAM Tests
U: UART Tests
A: All of the above Tests
C: Continuous Tests
> S: Single Test

O: Other System Tests
B: BOOT System Software
X: XMODEM download updated System Software

D: Restore all configuration data to factory defaults

M: Memory Byte/Word/Dword
P: Port I/O
Z: Change Terminal Speed

->
```

- 4** リセットシーケンスが開始され、ダウンロードの準備完了のメッセージが表示されます。

```
The System is now ready for download. Please start your XMODEM transfer.
CCCCC
```

- 5** コンピューター(コンソール)から、ファイルを転送します。  
プロトコルタイプは「Xmodem」を選択して通信ソフトウェアのファイル送信を実行します(ファイル転送の手順については、使用している通信ソフトウェアのマニュアルなどをお読みください)。

- 6** ファイル転送が正常に終了すると、次のメッセージが表示されて、システムは自動的に再起動します。

```
XMODEM transfer has successfully completed. Now writing to Flash PROM.
```

- 7** 「(press RETURN once or twice to enter Main Menu)」と表示されたら、[Enter]キーを押します。

- 8** メインメニューが表示されます。

### 3 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.4.2J から 2.5.0J へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 3.1 トランクグループのポートを以下の例のように再設定した場合、変更前と変更後の最小番号ポートにマルチキャスト/ブロードキャスト/送信元MACアドレス未学習のユニキャストパケットがフラッディングされていましたが、これを修正しました。  
例: トランクグループのポートを 3~4 → 1~4 に変更した場合(3 → 1 のようにグループの最小番号ポートをより小さい数に変更した場合)、ポート 3 とポート 1 (変更前と変更後の最小番号ポート) にフラッディングされる。
- 3.2 RRP スヌーピングの設定を「Null(not configured)」に戻したとき、ログに「RRP - Ports ""」のメッセージが二重に表示されていましたが、これを修正しました。
- 3.3 本製品に Telnet 接続し、メニューから他の機器に MAC アドレスによる指定で Ping を実行した場合、RRP を発行せず Ping がタイムアウトになることがありましたが、これを修正しました。
- 3.4 本製品でリブートを繰り返すと、拡張モジュール「AT-A15」を含む 1000BASE-X ポートがリンクアップしなくなる場合がありましたが、これを修正しました。
- 3.5 本製品と同一の IP アドレスを持つコンピューターを接続してしまった場合、コンピューターの IP アドレスを正しい値に変更するなどしても、本製品を再起動しない限り、本製品宛通信、および本製品からコンピューター宛の通信ができませんでしたが、これを修正しました。
- 3.6 マルチプル VLAN モード設定時に、SNMP マネージャーから mib fdb 情報を Get できるように修正しました。
- 3.7 SNMP で ifDescr を参照する際に、ifEntry.1 ~ ifEntry.24、または ifEntry.1 と ifEntry.2 のように複数同時に取得しようとする時、本製品が誤った値を返す場合がありましたが、これを修正しました。
- 3.8 SNMP RMON 総受信パケット数に Undersize、Oversize、Fragment パケット数が含まれるように修正しました。
- 3.9 マネージメントポートと同一の VLAN に属しているポートがすべてリンクダウンしている状態で、本製品からの送信(Ping、Trap)が発生すると、本製品宛の通信が不可になっていましたが、これを修正しました。
- 3.10 拡張モジュール「AT-A14」の 100BASE-TX/1000BASE-T ポートと接続先のポートを 100Mbps で通信させると、Fragments が多発し、通信が遅くなる場合がありましたが、これを修正しました。

## 4 オペレーションマニュアルについて

ソフトウェアバージョン2.4.0Jで、オペレーションマニュアルが「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル(J613-M0521-00 Rev.A)」というAT-S24/AT-S26ソフトウェア搭載製品共通のマニュアルに改版されました。

このマニュアルは弊社ホームページに掲載されていますので、同梱のマニュアルが「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」でない場合は、そちらをご覧ください。

初期バージョン以降、どの機能がどのバージョンで追加されたかは、v ページ「追加機能と対応ソフトウェアバージョン」に記載されています。


「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」へのリンクはこちら：

<http://www.allied-telesis.co.jp/support/9006sx/manual.html>

## 5 オペレーションマニュアルの補足・誤記訂正


「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル(J613-M0521-00 Rev.A)」の補足と誤記訂正です。

### 5.1 MAC テーブルの消去について


 「AT-S24/AT-A26 オペレーションマニュアル」2-124ページ

ダイナミックに学習した MAC アドレスの登録をすべて消去する [Clear dynamic MAC table] オプションについて、MAC アドレステーブルに MAC アドレスが 4,000 個以上登録されているような場合は、このオプションを 2 回実行するようにしてください。一度の実行ではすべての MAC アドレスが消去されない場合があります。

### 5.2 最大トランクグループ数について

 「AT-S24/AT-A26 オペレーションマニュアル」2-64ページ

最大トランクグループ数を示す表において、10/100M [拡張モジュール] の数に誤りがありませんでした。以下のとおり訂正してお詫びいたします。

 [1] (1グループ)

 [2] (2グループ)

## 6 注意事項

---

### 6.1 1000BASE-X ポートについて

---

- 1000BASE-X ポート同士の通信において (AT-A15 同士のカスケード接続、CentreCOM 9006SX/SC 同士のカスケード接続、AT-A15 と CentreCOM 9006SX/SC のカスケード接続)、ソフトウェアバージョンの組合せによっては、正しく通信できない場合があります。1000BASE-X ポート同士の通信を行う場合は、必ずスイッチ本体を以下に示すソフトウェアにバージョンアップしてからご使用ください。

CentreCOM 8216FXL/SC : バージョン 2.0.0J 以降  
CentreCOM 8224XL : バージョン 1.2.12J 以降  
CentreCOM 9006SX/SC : バージョン 1.0.5J 以降

- 本製品は、[Port status and configuration] メニュー内において、1000BASE-X ポートの通信モードを [Half duplex] に設定することが可能です。ただし、1000BASE-X ポートの場合、本製品出荷時点で他の検証機器がないため、本製品同士、および弊社 AT-A15、CentreCOM 8216XL との検証のみを実施しています。
- 通信になんらかの問題が発生した場合は、光ファイバーケーブルの抜き差しを行うようにしてください。また、光ファイバーケーブルの抜き差しは、必ず TX と RX の両方を行ってください。



